



FUJIEDA SOUTH ROTARY CLUB
藤枝南ロータリークラブ会報
例 会：毎週金曜日 小杉苑 藤枝市青木2-35-30 TEL：054-641-3321
事務局：藤枝市青木1-11-10 TEL：054-647-2300 FAX：054-647-2040
E-mail:club1991@fujieda-rotary.org
会長：内山 淑夫 副会長：山田 壽久 幹事：竹田 敏和 副幹事：渡邊 博文
第1148回



<http://www.fujieda-rotary.org>

- ソング 君が代・奉仕の理想
- ソングリーダー 中村 博史君

■ 会長報告

内山 淑夫君

ロータリークラブの会長になると毎週人前で話さなくてはならない、これがいやで会長直前になって退会するものが跡を絶



たないという話が近隣某クラブの直前会長さんからありました。んなバカなと思うのは私だけでしょか。でもホントのことです。

それからみたら伊藤直前会長の毎度のスピーチは声も明朗、理路整然とし、時の話題も取り入れ、まったく見事と言うほかない内容でした。それに比べて手前のことになると本当にお恥ずかしくて、考えてみたら人前で話をするのは小学校の時に窓から逃げだして先生に運悪く目撃され教室内で逃亡の理由を言わされて以来ですから、まことに心許ない。会長職を修行の場と考え、何とかしたいと苦悶の日々であります。

スピーチの話題です。8月30日に御殿場のYMCAでロータリー青年交換留学生6名のスピーチを聞いてきました。彼女・彼らの体験は私にとっても新鮮で驚きの連続。1年間の経験が人生を変える様を見せつけられて、私のはらわたは嫉妬に煮えくりかえりました、私も女子高校生に生まれ変われたら、何はなくともロータリーユースイクスチェンジだと。こんなすばらしい発表ですが聞いていたのは地区の役員と父兄、交換留学生輩出クラブ関係者のみという惨憺たる状況でした。つまり関係なく来ているのはおっちょこちょいの私と竹田幹事のみでした。なぜ地区会で多くの会員の前でやらないのかと。つまらない講師の訳のわからない話よりも遙かに貴重で感動する話ですし、ロータリーのすばらしさを実感できる活動報告なのですから。

苦言のあとの締めくくりは、記憶に残る留学生の一言。浜松の女の子でした。『アタシのようなウダツの上がない女子高校生がアメリカに1年間留学したことによって、アタシも世界を良い方向に導く活動をしていこうと思うようになった』やっば、ロータリーはすごいわ。

■ 理事会報告

竹田 敏和君

- ・10・11月プログラムについて、10/23 職場訪問例会はサッポロビール、11/27 職業奉仕委員会三井農林見学で承認されました。
- ・9月11日がバナー補佐公式訪問・クラブ協議会は承認されました。
- ・次年度指名委員会発足について、伊藤直前会長を中心に奇数年度会長と富澤初代会長の出席を御願ひすることが承認されました。
- ・次年度地区委員会副委員長推薦の御願ひについて高杉さんを推薦し、9/30に報告する事が承認されました。
- ・8/23財団セミナー報告について承認されました。
- ・8/30地区青少年交換事業報告会の報告について、承認されました。
- ・藤枝市ゴルフ大会ご協賛の御願ひについて、例年通り10,000円で承認されました。
- ・藤枝市民文化祭収益金をポリオ寄付して頂ける件は承認されました。
- ・事務局給与計算の件は承認されました。

■ 幹事報告

竹田 敏和君

- ・第2620地区より
コーディネーターニュース2015年10月号が届いております。
基本的教育と識字率向上月間 リソースのご案内が届いております。
英字版ロータリアンが届いております。

- ・藤枝市健康福祉協議会より
平成 27 年度 藤枝市健康福祉大会のご案内が
届いております。
- ・静岡県中部保健所より
「血液事業の現状」のお知らせが届いております。

■ 出席報告

平原 望君

本日のホームクラブ 出席者	前回の補正出席者
36/46 78.26%	40/46 86.95%

(1)欠席者（事前連絡とメイクアップをどうぞ）

- 池ヶ谷君 ○植田君 ○川口君 ○小林君
- 小山君 ○多々良君 ○樽井君 ○中山君
- 渡邊博君 森竹君

(2)メイクアップ者

伊藤 恒夫君（藤枝南）

■ スマイルBOX

平原 望君

- ・遅くなりましたが先月誕生日プレゼント有り
難うございました。また 100%出席の品有り難
うございました。 伊藤 彰彦君
- ・毎日、離婚届けが食卓の上にあります。何
とか 34 回続いております。 次男 渡邊君
- ・100%出席の記念品、有り難うございます。V
2 を達成しました。巨人の様に V9 目指して頑
張ります。 伊藤 恒夫君
- ・誕生日プレゼントありがとうございます。
小林 正敏君
- ・結婚記念日のお祝い有り難うございます。どう
も 20 周年記念の様です。色んな意味で頑張り
ます。 平原 望君

スマイル累計額 120,000円

■ 会員卓話

藪崎 茂君



藤枝に移り住んで、10 年という歳月が経過した折にこの藤枝南ロータリークラブに入会のお誘いを頂きました。

私にとって節目ともいうこの年にお誘いいただいたことは、何かの啓示のような気がして、即答で承諾させていただきました。

本日の卓話では、皆様に 3 つのお話をさせていただきます。

まずは、この私が、私が取り組んでいることをお伝えさせていただきたく思います。

主にこの藤枝においては、「まちづくり」と「障害者支援」をさせていただいております。

まちづくりにおいては、行政からの依頼が大半ではありますが、企画運営、イベントの運営を手掛けております。また独自に街づくりにかかわる企画をさせていただいたりしております。

「まち」をつくるということはどういうことか・・・。

「こと」を創って「人」を創って「まち」を創る。

私の公式・・・です。

「こと」を創るということは、「～したことを創る」ということ。そしてそれが人の記憶となることです。そして記憶がその人に残ることで、その人が「こと」を創り出す・・・。そしてそれが「まち」を創っていくわけです。

私がイベントを企画する際の根底はここにあります。

会社経営も同じです。社長が、事業という「こと」を創って「ひと」を創って「会社」を創る。

私には、さまざまな公式があります。さまざまなイベント企画や事業、活動はそれらの公式に当てはまります。

何か「こと」を行う際に、やはり迷いなどが出来てきた時、公式を模索します。数字に嘘がないのと同じでその数字を導かせる公式にはまちがないのです。

答えを出せない公式は存在しないからです。

出せない答えが違うのは、は根本的に、使った公式がちがうのか検証しなければなりません。

それをきちんと検証していきながら「こと」を進めることが、「やぶざき品質」であり、それを提供することが、「やぶざきプライド」であります。それが「やぶざきブランド」なのです。

まちづくりに続いて、障害者支援についてですが、関西在住にから私が取り組んでいる事業であります。

ご存知のように私は 20 年前、阪神大震災において大切な家族を失うという人生最大の危機に見舞われました。

そして、仕事を辞め自分だけがこの世で一番、不幸を背負った人間なのだと思います、自棄になっていた時に、自身の音楽活動で知り合ったいわゆる知的障害者の子供たちとの出会いでスイッチを切り替えることができ、新たな人生を歩んでいこうと決意したのです。

それからは、障害者支援をライフワークとして現在は、障害者の施設のコンサルタントとして、職員研修やプログラムの作成などさせていただきながら、同時に地域と行政と障害者とのパイプ役として仕事をさせていただいております。

先ほどお話しした「まちづくり」と「障害者支援」を合わせ持った「グラデーションコミュニティの創出」というコンセプトにおいて事業をさせていただいております。

「グラデーションコミュニティの創出」とは、雨上がりの虹のようにそれぞれ色として区別はありますがそれぞれの色にお境目は非常に重ね合った「グラデーション」です。障害を持つ人、持たない人・・・それぞれまちで生活していく上で、互いに理解し合うということに関しては、平等というより「区別」は必要です。

でもその「区別」という境目は、非常にあいまいな境目であればあるほど互いの尊厳を分かち合えるものです。

私の事業にはすべてこの「グラデーションコミュニティ」の考え方があります。

それは、単に市民活動に留まることなく、事業として成立させることで、本当の意味を持ちます。

持続継続可能な仕組みは、まずは、想いと決意が必要ですが、それだけではなくそれが、単にボランティアではなく経済活動としても行わなければ、その仕組みは成立しません。

人口14万の地方都市でこの持続継続可能な形にしていくために、私はこのロータリークラブでロータリアンの精神にもとづきロータリー活動を行いながら、同時に私の「グラデーションコミュニティ創出」のためのメッセージを皆さんにお伝えしながらご理解いただきたいと思います。

それは、単に市民活動に留まることなく、事業として成立させることで、本当の意味を持ちます。

福祉の世界においては、ボランティア的な要素が強く、なにかと「無償」という言葉が飛び交います。

今一步前進できないところのポイントでもあります。

そうしたところをこれからは、ある点では考え方を施設も、また企業も、まちも変わっていかなくてはなりません。

私は、障害者コンサルタントとして、障害者関係者やまた関係施設、関係企業に対して、アドバイスをさせていただきながら、私も事業として確立し、持続継続していくために日々、悪戦苦闘させていただいております。

最後に、本日は、皆さんにここで一つの障害者の定義についてお伝えしたいと思います。

「障害者」とは・・・。

YAB的にその定義は・・・。

いったい何が障害でしょう？知的、発達、身体などなど・・・。

よく知的障害や発達障害などの場合、障害ではなく個性という表現をされるケースもあります。

でも、それは、本当のところ「障害」という言葉を使うことが憚り、相手に対して申し訳ない的な、気を使っている的な・・・要素もあります。

決して悪くはありません。でも一般的に、ピンとこない人もおられます。言葉の表現って難しいし、漢字で表わすとね・・・。「害」ってつきます、最近「障がい」と表記するケース多いですが、「害」も「がい」も言葉で発すれば漢字表記か、ひらがな表記かわからないですよ！声に出せば「障害者」も「障がい者」も同じ・・・。

以前はYABも文章に「障害者」を「障がい者」と表記しておりましたが、最近「障害者」と表記するようになりました。

「障害」とは、私的にその定義は・・・。

「この世の中でその人が、生活していく上で、その時々不便を感じたりして社会生活の中で障害を感じてしまうこと。」

本人だけではなく、地域の中にも「障害」があるということを知っていただきたいのです。

一般的には、本人自身に対しての「障害者」という定義ですが、地域社会的には、その人が生活していく上で本人にとって障害とを感じる人を「障害者」と、私は定義します。

だから、「障害者」が「まち」の中で困っていたりしていたら、声をかけて、その困っていることを解決してあげたり、「これってこまるだろうな？」とか「こうしたら楽しく日々をすごせるだろうな？」とかをみんなが考え行動してもらえ

ば、「障害者」という定義は私の中では、存在しなくなるのです。

企業もこうしたら、不便に感じないだろうなという商品やハード、仕組みを考えて儲けていただければいいのです。

少なくとも私が住んでいるこの「まち」では、「障害者」という地域社会的には、なくなる「まち」にしたいと思うのです。

人口14万の地方都市でこの持続継続可能な形にしていくために、私はこのロータリークラブでロータリアンの精神にもとづきロータリー活動を行いながら、同時に私の「グラデーションコミュニティ創出」のためのメッセージを皆さんにお伝えしながらご理解いただきたいと思っております。

藤枝南ロータリークラブに入会し、みなさまとご縁をいただきました。そのご縁をこれから大切にしていくためにも、粉骨砕身、新人なりに精進していきたいと思っております。



中村 博史君

こんにちは。今年の1月から入会させていただいた中村です。

日頃、皆様には大変お世話になっております。まだ入会したばかりなので、この歴史のある「ロータリー」の活動、内容、魅力等についてまだはつきり認識しておらず、分からないことばかりです。

現在45歳でまだまだ若輩者です。ここに居られる会員の皆様のお顔を見ると偉大なる人達ばかりで、私のような者がここにいていいのか疑問であり不安ばかりでありますけど、せっかく頂いた御縁でありますから、明るく、楽しく、元気に、ロータリーの活動を楽しみたいと思っております。そして、これからの活動を通し、諸先輩方を見習い研鑽して、本当の意味で皆様の仲間として認めていただけるように頑張りたいと思っております。

今回、突然、漆畑さんから、「今度の卓話頼むね、持ち時間15分だから」JCも13年所属していましたが、3分間スピーチでさえ一度もやったことがありません。持ち時間15分とのことですが、今まで人前でそんな長い時間話をしたことがございません。お聞き苦しいと思いますが宜しくお願いたします。

今回はテーマが格別無く、趣味、仕事なんでも結構とのことですが、入会間もないですから、まだ私の事を誰だか分からない会員の方が多いと思っておりますので、自己紹介をさせていただけたらと思っております。

私は、高柳で水道工事業を営んでおります。水道屋といっても幅が広く主には・上水道・下水道・浄化槽・道路配水管・下水管布設工事・漏水修理また、蛇口のパッキン交換等、様々な工事を展開しております。工事エリアですが、西は浜松から東は沼津までご要望に応じて施工致します。

大手ハウスメーカー様や地元の工務店様からご要望をいただいております。

私共会社は、昭和60年に駅南の前島に設立し、今年で31年目となりました。私が、代表になり13年目を迎えております。

もともと、祖父が駅南で、中村商店という名前で燃料店を営んでおりました。当時の燃料ですので、コークスが主だったと思われます。時代の流れの中でコークスからガスへ変わっていき、プロパンガスの供給に携わって来ました。まだ駅南に志太病院、富士物産があり、今の駅南を見ると想像もできない時代でした。祖父の病気に伴い中村商店は長男が継承し、二男である父はガス配管で身につけた技術を生かし、水道工事業を始めました。まだ幼いころの記憶で、当時は3.4人程度の人数で工事をしていたと思っております。

私がこの会社に入社する頃は8人位の従業員で頑張っていました。

現在は、おかげさまで従業員男女合わせて33人の体制で地域の皆様に可愛がってもらっております。

私共のストロングポイントは、機動力です。平均年齢35歳。すべての工事を自社社員が、直接施工致します。これにより現場での臨機応変な対応、自社一貫教育による品質の安定を提供致します。会社は継続が大事と考えます。50年・100年と継続できる会社になる為に、今、出来ることを全力でやっていきたいと思っております。

「思考は現実化する」

すこし前に読んだ本がありました。たまたまこの本を読んだのですが、大変驚きました。実は、この本を読む前から自分の中ではずっと信じていたし、普段からそうなるものと思っていました。現実に体験していたからです。

「考えることが、その通りになる」と。

私は、小学生の頃からサッカーをやっておりました。当時はプロも無いし、キャプテン翼もありませんでしたから何が理由ではじめたのか分かりません。多分、他愛もないきっかけで始めたと思います。小学校2年に青島小学校の少年団に入団して、みんなと一緒にボールを追いかけていました。何も考えていませんでした。サッカーしてみんなと遊ぶ。そんな楽しい毎日でした。そんな中、なぜか小学校4年の頃から、藤枝東高校の藤色のユニフォームに憧れるようになり、それから生まれて初めて自分にはっきりとした目標を持ちました。そう、「藤枝東高校の藤色のユニフォームを着る」でした。そうです。「目標を持った時、そこまでのイメージが自然に頭の中で駆け巡りました。背番号10番をつけてグラウンドを走り回る自分の姿です。嘘ではなく鮮明にイメージできていました。

それからは、自然にそうなるようになっていったと思います。

高校に入って、初めてユニフォームを着たときの感動は今も忘れません。しかし、その当時の私の目標は「藤色のユニフォームを着る」でした。しかし、ユニフォームを来てプレイする自分はイメージできたけれども、その後の将来サッカーをしている自分はイメージしていませんでした。できなかったかもしれません。卒業してそれからは、上ではサッカーをやらず自然とサッカーから離れていきました。

好きな女性もそうでした。本当に自分が好きになって強烈に考えるとその通りになりました。多分・・・そうでした。そう思っております。

自分の妻もそうです。初めて見たときに強烈にイメージできました。まだ高校1年の頃です。高校の前の森パンで、サッカー部が練習後みんなで溜まっていた時でした。お付き合いは、高校3年の

頃でしたが、その頃すでに結婚しているイメージがありました。

冗談みたいな本当の話です。

会社もそうです。入社した頃、しきりに考えていました。「仕事終わったら会社の仲間と会社でシャワー浴びて着替えて飲みに行きたい」とか、「従業員11人以上にしてサッカーチーム作ってみんな市内リーグに出たいな」とかです。イメージしていました。いつも考えていました。そのうちなんとなく、社員が増えてフットサルができるくらいになり、会社のユニフォームを作りました。会社の仲間と、帰りに飲むことも出来るようになりました。まだ他にもいろいろあります。

言えることは、そのことについて、心がときめくことが大事ということです。ときめくと、心と頭にスイッチが入ります。このスイッチが大事になると思います。スイッチが入ることによって思考が始まり、その目標に向かって自分と、自分を取り巻く環境がもの凄い力のベクトルとなって向かっていく。

今回、藤枝南ロータリークラブに入会させて頂き、この出会いを機に、心をきれいにし、最近少なくなった、自分の心のスイッチが入るような何かが見つければいいかなと思います。

いつか、世界へプレゼントとなるよう日々努力していきたいと思います。

■ 奨学金授与

米山奨学生
ドーバトクーン君



2014~2015年
年間皆出席表彰

朝比奈 潔君 飯田 敏之君 池ヶ谷 勇君
 伊藤 彰彦君 伊藤 恒夫君 稲葉 俊英君
 梅島 純夫君 漆畑 雄一郎君 桑原 茂君
 小池 吉久君 小山 明良君 杉浦 聡君
 鈴木 健夫君 高杉 光洋君 竹田 敏和君
 玉木 末雄君 富澤 賢一君 富澤 静雄君
 伴野 正明君 早川 清人君 平原 望君
 松浦 正秋君 村松 章隆君 望月 誠君
 森竹 正晃君 山田 壽久君 若林 秀典君
 渡邊 博文君 渡邊 芳隆君

例会プログラム

例会日	クラブ行事	摘要
9/11(金) 第 1149 回	クラブ協議会 25周年実行委員会③	
9/18(金) 第 1150 回	外部卓話	
9/25(金) 第 1151 回	25周年実行委員会④	
10/2(金) 第 1152 回	会員卓話	理事会

9月のお祝い
おめでとうございます！



(担当/藪崎幸君)